

【SR-7 評価シート エビデンス総体】

診療ガイドライン	8 Gy/1 回照射は有痛性乳癌骨転移の疼痛緩和を目的とした場合、分割照射と同等の治療として勧められるか？
対象	有痛性骨転移を有する症例
介入	8Gy/1 回の外照射
対照	分割外照射

\* バイアスリスク、非直接性

各ドメインの評価は「高 (-2)」、「中/疑い (-1)」、「低 (0)」の 3 段階。

まとめは「高 (-2)」、「中 (-1)」、「低 (0)」の 3 段階でエビデンス総体に反映させる。

\*\* 上昇要因

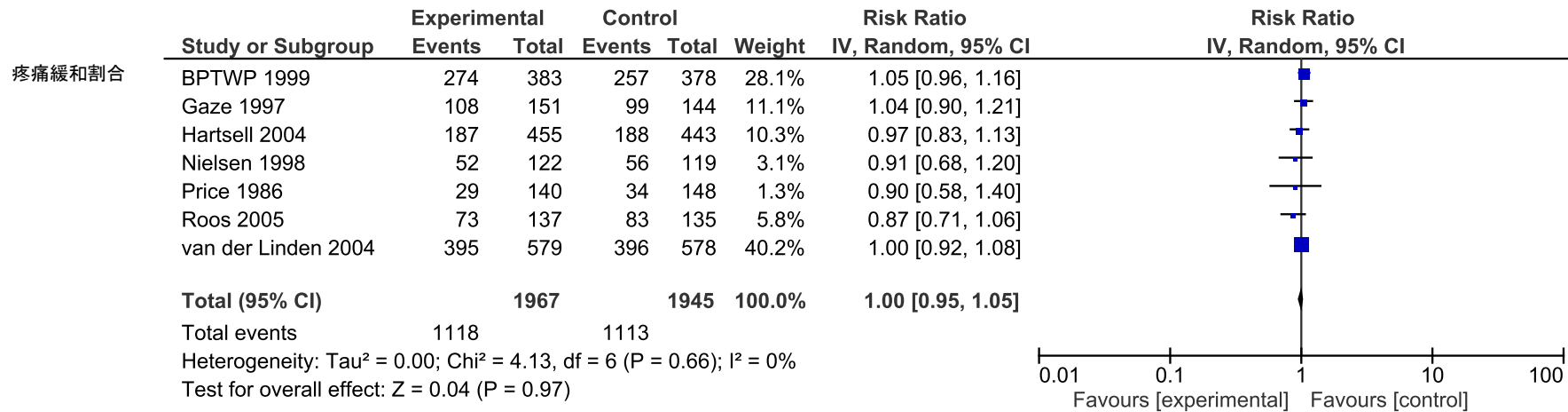
各項目の評価は「高 (+2)」、「中 (+1)」、「低 (0)」の 3 段階。

まとめは「高 (+2)」、「中 (+1)」、「低 (0)」の 3 段階でエビデンス総体に反映させる。

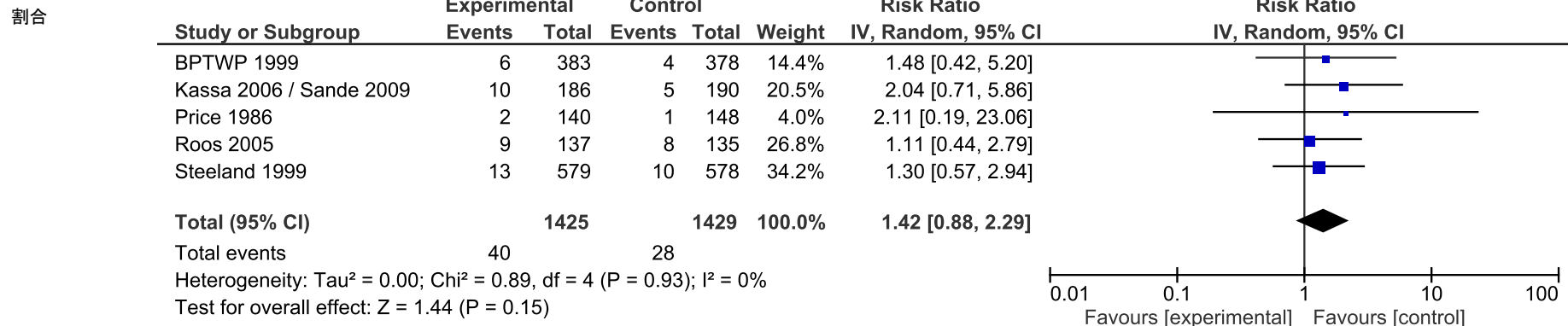
アウトカムごとに別紙にまとめる。

エビデンス総体

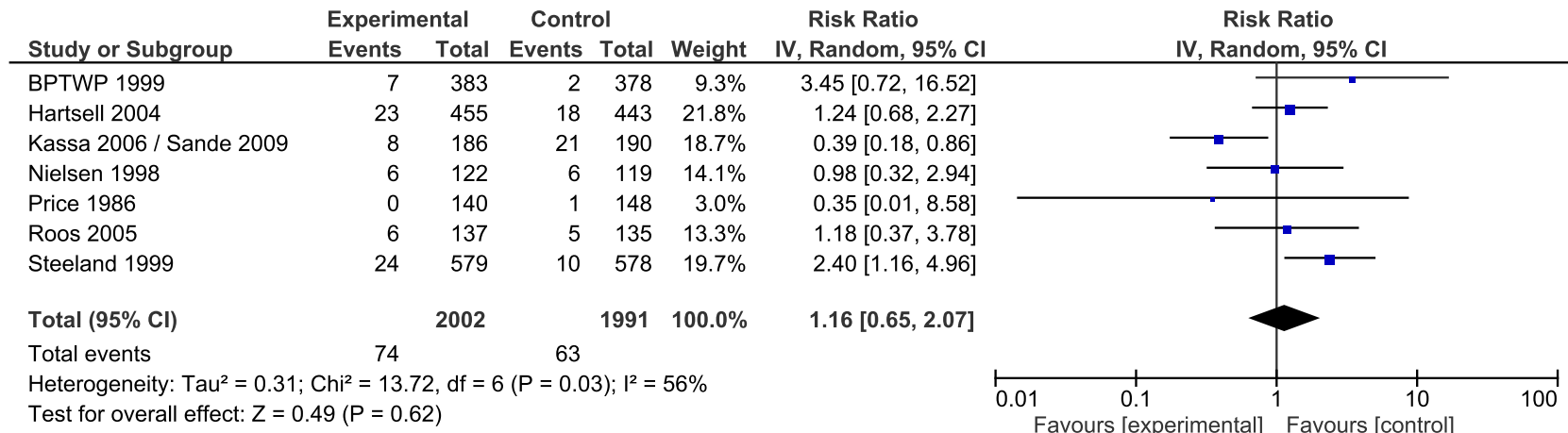
アウトカム	研究数	* バイアスリスク	* 非一貫性	* 不精確性	* 非直接性	* その他 (出版バイアスなど)	* (観察研究)	* 上昇要因	リスク人数 (アウトカム率)				効果指標 (種類)	効果指標統合値	95% 信頼区間	** エビデンスの強さ	*** 重要性	コメント		
									対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母							介入群分子	(%)
疼痛緩和割合	RCT 7	-1	0	0	0	0	0	0	1945	1113	57.2%	1967	1118	56.8%	RR	1	0.95, 1.05	中(B)	9	疼痛緩和割合に関し、8Gy/1fr は従来の分割照射と差がない。
脊髄圧迫発生割合 (運動機能維持)	RCT 5	-1	0	-1	0	0	0	0	1429	28	2.0%	1425	40	2.8%	RR	1.42	0.88, 2.29	中(B)	7	運動機能維持(脊髄圧迫発生割合)に関し、8Gy/1fr は従来の分割照射と差がない。
骨折発生割合 (QOL)	RCT 7	-1	-2	-1	-1	0	0	0	1991	63	3.2%	2002	74	3.7%	RR	1.16	0.65, 2.07	中(B)	7	QOL(代替指標とた骨折発生割合)に関し、8Gy/1fr は従来の分割照射と差がない。
再照射割合 (局所制御)	RCT 7	-1	0	0	0	0	0	0	1991	160	8.0%	2002	400	20.0%	RR	2.36	1.62, 3.38	中(B)	7	再照射割合(局所制御)に関し、8Gy/1fr は従来の分割照射と比べて不良。
有害事象	RCT 3	-1	-1	0	0	0	0	0	575	115	20.0%	604	84	13.9%	RR	0.73	0.54, 1.00	弱(C)	7	8Gy/1fr は従来の分割照射と比べて G2 以上の急性期有害事象発が少ない。



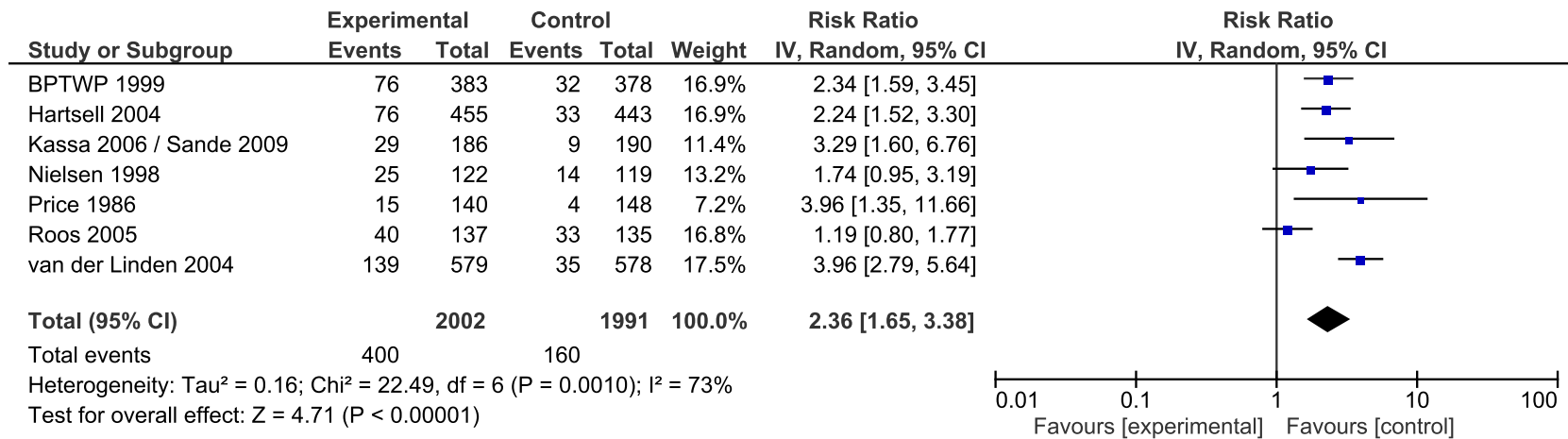
脊髓压迫発生



骨折発生割合



再照射割合



G2 以上の急性

期有害事象の

発生割合

